



2.19

菅波 茂

91

「Vへの挑戦」。Vとは岡山駅を扇のななめとした市役所と岡山城までの街のイメージである。Vは何を意味するのか。福祉先進県岡山のシンボルである。現在の福祉の街つくりのシンボルは車いすでの生活である。現在、車いすでも生活可能な都市は世界広しといえどもイタリヤに1カ所しかない。岡山市を世界で2番目、アジアで最初の車いすでの生活できる都市にする挑戦である。Vはそのモデル地区である。

車いすの生活は健常者には何でもないことでも支障をきたすことが多い。段差はもちろん、じゅうたんでも行動を束縛する。歩道にある自転車などもつてのほかである。公衆電話にもいろいろあり、車いすに最もやさしかった公衆電話は城下広場にあった。その高さ、

電話線の長さ、車いすとの距離等々。設計者の人柄と視点がしのばれた。決定的に少ないのが車いすで使える公衆トイレである。車いすで楽しめる喫茶店、ショッピングセンター、そしてホテルになると皆無である。車いす使用可能なタクシーやバス、市内電車は夢である。街並み全体を車いす使用者が楽しめるようにするためには、地域住民のみならず、行政や商工業に従事する団体の理解と実践があつて初めて可能になる。一見収益とは無関係な出費が必要となる。健常者にとっての利便性や効率性がダウンするかもしれない。それでも岡山は「Vへの挑戦」をすべきである。なぜか。それが岡山の地域おこしの特効薬になるからである。

Vへの挑戦

地域おこしのヒントは地域の特徴を生かしたオンリーワン政策である。岡山県の特徴は何か。燃え

ない岡山が燃えたのは後にも先にも1回だけである。それは阪神大震災での県民挙げての救援活動だった。この救援パワールの根源は何か。これが岡山の地域特性である。それは医療、教育そして宗教に対する感受性の高さである。オンリーワン政策は県民の誇りとプライドを満足させて価値が出る。

「Vへの挑戦」が実現する時、白本中が驚がくする。全国の自治体からの視察者が押しかけてくる。それ以上に全国の車いす使用者に人生のオアシスが誕生したことを意味する。特別養護老人ホームや老人保健福祉施設の整備も大切である。しかし、車いす使用の高齢者が街に繰り出し、人生を楽しめることはもっと大切である。AMDAは岡山から海外へ人道援助活動を展開している。世界の人たちは岡山とはと思う。「Vへの挑戦」がその答えになればうれし。

(アジア医師連絡協議会代表・題字は筆者)